

汽水・淡水魚類リスト<改訂:平成26年>

カテゴリー	目名	科名	種名	理由	備考		
					改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
絶滅	スズキ	キス	アオギス <i>Sillago parvisquamis</i>	かつては吉野川河口付近において普通に釣獲されていたが、1970年代以降に激減し、1989年に3個体が沖洲海岸地先で確認されたのを最後に記録がない。沖洲海岸が産卵場になっていた可能性が高く、現在は埋め立てられ消失しており、生息の可能性は極めて低い。	絶滅危惧I類		最後の記録から50年以上経過していないが、複数の調査や情報収集によっても生息の確認が得られておらず、生息の可能性が極めて低いことから、絶滅と判断した。
絶滅危惧IA類	ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	スナヤツメ南方種 <i>Lethenteron</i> sp. S.	近年新たな生息地点が発見されているものの、同一水系内における確認であるため、本種の生息基盤は脆弱であると考えられる。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	和名変更(旧:スナヤツメ)、県指定希少野生生物(H.19)
絶滅危惧IA類	コイ	コイ	カワバタモロコ <i>Hemigrammocypripis rasborella</i>	2004年に絶滅していないことが判明した。生息範囲が100 km <sup>2</sup> 以下であり、再発見以来、生息個体数に極度の減少が見られる。	絶滅	絶滅危惧IB類	現在では野生絶滅の状態に近いと考えられる。県では現地で採集した個体に基づき増殖維持を図っている。
絶滅危惧IA類	スズキ	ケツギョ	オヤニラミ <i>Coreoperca kawamebari</i>	河川改修や水質汚濁、外来種による影響により生息状況が大きく悪化しているだけでなく、他水系産個体の放流による遺伝的攪乱が見られる。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	県指定希少野生生物(H.19)
絶滅危惧IA類	スズキ	カジカ	カジカ小卵型 <i>Cottus reinii</i>	個体群としては四国では那賀川下流域のみに現存し、分布域の狭さから、全国版よりも絶滅危急度が高いと考えられる。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	和名変更(旧:カジカ小卵回遊型)、環境省第4次レッドリストによる。
絶滅危惧IA類	スズキ	ハゼ	キセルハゼ <i>Gymnogobius cylindricus</i>	近年新たに生息が確認された。干潟に生息するが分布が極めて限定的であり、全国版よりも絶滅危急度が高いと判断される。		絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IA類	スズキ	ハゼ	エドハゼ <i>Gymnogobius macrognathos</i>	一部の紀伊水道流入河川河口域のみに生息し、近縁のチクゼンハゼに比べ分布が限定的であり、全国版よりも絶滅危急度が高いと考えられる。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IB類	コイ	ドジョウ	ナガレホトケドジョウ <i>Lefua</i> sp. 1	勝浦川を除く紀伊水道斜面の水系および日和佐川水系などの源流域に特異的に生息する。源流域の環境改変によって減少傾向にある。	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	
絶滅危惧IB類	サケ	シラウオ	シラウオ <i>Salangichthys microdon</i>	新町川水系のみで確認されており、分布が限定的、生息個体数も少ない。	絶滅危惧II類		
絶滅危惧IB類	スズキ	ハゼ	シロウオ <i>Leucopsarion petersii</i>	県下で唯一漁業が成り立っている樺川において遡上量が減少しているものの、近年新たに県南の伊勢田川や紀伊水道側の勝浦川にも遡上していることが判明した。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	

カテゴリー	目名	科名	種名	理由	備考		
					改訂前カテゴリー	環境省カテゴリー	特記事項
絶滅危惧IB類	スズキ	ハゼ	タビラクチ <i>Apocryptodon punctatus</i>	那賀川や勝浦川水系からも新たに生息が確認されたが、依然として分布は限定的で生息個体数も少なく、全国版よりも絶滅危急度が高いと判断される。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧IB類	スズキ	ハゼ	トビハゼ <i>Periophthalmus modestus</i>	干潟の減少に伴い生息状況の悪化が進行している。	絶滅危惧II類	準絶滅危惧	
絶滅危惧IB類	スズキ	ハゼ	チクゼンハゼ <i>Gymnogobius uchidai</i>	紀伊水道側河川河口域の泥混じりの砂礫底に生息する。干潟の減少や環境悪化により生息状況が悪化している。	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	
絶滅危惧II類	ウナギ	ウナギ	オオウナギ <i>Anguilla marmorata</i>	県南地域での確認例が増えている。	絶滅危惧I類		
絶滅危惧II類	コイ	ドジョウ	ドジョウ <i>Misgurnus anguillicaudatus</i>	河川中～下流域の周辺水系に生息するが、圃場や水路の整備などにより著しく減少している。	絶滅危惧II類	情報不足	現状では十分なデータがないため、ランクを変更しないが、同ランクのミナミメダカより危機的な状況にあると考えられる。
絶滅危惧II類	コイ	ドジョウ	チュウガタスジマドジョウ <i>Cobitis striata striata</i>	吉野川下流域および紀伊水道側河川の水路やワンドなど周辺水域に散発的に生息する。圃場や水路の整備、水質の悪化などで減少傾向にある。	準絶滅危惧	絶滅危惧II類	和名変更(旧:スジマドジョウ中型種)、学名が確定
絶滅危惧II類	ナマズ	アカザ	アカザ <i>Liobagrus reinii</i>	吉野川、勝浦川、那賀川、福井川、牟岐川、海部川など県下に広く分布するが、生息地は局所的で個体数は多くない。全体的には減少傾向にあると考えられる。	絶滅危惧II類	絶滅危惧II類	海部川における分布は移入によると考えられる。
絶滅危惧II類	ダツ	メダカ	ミナミメダカ <i>Oryzias latipes</i>	平野部を中心に広く分布している。しかし、海岸側は外来種のカダヤシに置換しており、ほとんどの生息地は圃場の整備や水路の整備によって生息環境が悪化している。また、ヒメダカや他水系産個体の放流による遺伝的攪乱も懸念される。	絶滅危惧II類	絶滅危惧II類	和名変更(旧:メダカ)、和名は検索3版による。
絶滅危惧II類	スズキ	カジカ	アユカケ(カマキリ) <i>Cottus kazika</i>	生息状況の悪化が進行している。県内最大の水系である吉野川での分布が第十堰によって大きく制限されている。	準絶滅危惧	絶滅危惧II類	
絶滅危惧II類	スズキ	ハゼ	チワラスボ <i>Taenioides</i> sp. B	汚濁の少ない泥干潟に潜行して生息し、生息適地が限定的である。		絶滅危惧IB類	学名は検索3版による。
絶滅危惧II類	スズキ	ハゼ	ゴマハゼ <i>Pandaka</i> sp.	生息地は県南小河川の河口域に限られる。現状では安定的に推移しているが、汽水域の環境は脆弱であるため注意が必要である。	絶滅危惧II類	絶滅危惧II類	学名は検索3版による。
絶滅危惧II類	スズキ	ハゼ	マサゴハゼ <i>Pseudogobius masago</i>	砂泥質の干潟に生息する。干潟の減少や環境悪化により生息状況が悪化している。	準絶滅危惧	絶滅危惧II類	
絶滅危惧II類	スズキ	ハゼ	クボハゼ <i>Gymnogobius scrobiculatus</i>	近年新たに生息が確認された。生息地が河口干潟に限定されている。		絶滅危惧IB類	
準絶滅危惧	コイ	コイ	ヤリタナゴ <i>Tanakia lanceolata</i>	特に都市部を中心に生息状況の悪化が進行している。二枚貝類の生息状況が悪化すれば今後さらに本種の生息状況が悪化するおそれがある。	留意	準絶滅危惧	

カテゴリー	目名	科名	種名	理由	備考		
					改訂前カテゴリー	環境省カテゴリー	特記事項
準絶滅危惧	コイ	コイ	ヌマムツ <i>Nipponocypris sieboldii</i>	那賀川水系以北の紀伊水道側に分布が限定されている。河川の本流よりも周辺のワンドや細流を好むことから、改修工事等による生息環境改変の影響を受けている。	留意		和名変更(旧: カワムツA型)、 属名変更(検索3版では属は Candidia)。
準絶滅危惧	コイ	コイ	タカハヤ <i>Rhynchocypris oxycephalus</i>	県下に広く分布するものの、分布は散発的で個体数も少ない。	準絶滅危惧		属名変更(検索3版では Phoxinus oxycephalus jouyi)。
準絶滅危惧	コイ	コイ	モツゴ <i>Pseudorasbora parva</i>	主として紀伊水道側河川下流域の水路や溜池など周辺水域に生息しているが、一部県南の海部川水系でも見られる(移入の可能性もある)。生息個体数が多く生息状況は安定的と考えられるが、圃場整備などによりかつてより減少していると考えられる。	留意		
準絶滅危惧	コイ	コイ	ムギツク <i>Pungtungia herzi</i>	園瀬川以南の紀伊水道流入河川に分布が限定されている。産地不明の個体が観賞用に販売されている。一部河川では移入による分布の拡大がある。	留意		
準絶滅危惧	コイ	コイ	タモロコ <i>Gnathopogon elongatus elongatus</i>	吉野川水系下流域の周辺の水路などに生息する。圃場や水路の整備、水質の悪化などで減少傾向にある。	準絶滅危惧		
準絶滅危惧	コイ	コイ	イトモロコ <i>Squalidus gracilis gracilis</i>	紀伊水道流入河川に分布が限定されている。同様の分布域を有する近縁のコウライモロコが多く生息するのに対し、本種の生息数は減少している。	留意		
準絶滅危惧	スズキ	アカメ	アカメ <i>Lates japonicus</i>	生息地は県南域に限定され、生息個体数も少ないが安定している。かつては県南の汽水域のある河川で繁殖していたと考えられるが、近年では成魚のみが確認されており、繁殖の兆候はない。	準絶滅危惧	絶滅危惧IB類	隣接した高知県海域からの回遊が考えられる。
準絶滅危惧	スズキ	カワアナゴ	カワアナゴ <i>Eleotris oxycephala</i>	生息個体数は少ないが、紀伊水道側河川から県南河川まで広く分布している。	準絶滅危惧		
準絶滅危惧	スズキ	ハゼ	イドミズハゼ <i>Luciogobius pallidus</i>	近年、紀伊水道側河川以外にも播磨灘側や県南からも複数河川河口域から生息が確認された。しかし生息環境が限定的で個体数も少ないことから注意を要する。	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
準絶滅危惧	スズキ	ハゼ	ヒモハゼ <i>Eutaeniichthys gilli</i>	紀伊水道側河川の河口域からのみ確認されている。生息環境が限定的で個体数も少ないことから注意を要する。	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
準絶滅危惧	スズキ	ハゼ	タネハゼ <i>Callogobius tanegasimae</i>	県南および伊島の河川河口域に生息している。生息環境が限定的で個体数も少ないことから注意を要する。	準絶滅危惧		

カテゴリー	目名	科名	種名	理由	備考		
					改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
準絶滅危惧	スズキ	ハゼ	シモフリシマハゼ <i>Tridentiger bifasciatus</i>	元々県内では生息数が少なかったが、河口域の環境変化により生息状況が悪化している。	留意		
準絶滅危惧	スズキ	ハゼ	シマヒレヨシノボリ <i>Rhinogobius</i> sp. BF	河川本流よりもワンドや細流、池等に生息する純淡水性のヨシノボリ類。移入されたトウヨシノボリとの交雑やオオクチバスによる食害の影響を受け減少している。	留意	準絶滅危惧	和名変更(旧:トウヨシノボリ縞鱧型)
準絶滅危惧	スズキ	ハゼ	ツマグロスジハゼ <i>Acentrogobius</i> sp. 2	従前の「スジハゼ」種群3種のうち、本種は生息地が汽水域の泥～砂泥干潟に限定されている。	留意		和名変更(旧:キララハゼ属の一種)、名称は検索3版による。
準絶滅危惧	スズキ	ハゼ	ウキゴリ <i>Gymnogobius urotaenia</i>	紀伊水道側河川の下流域に生息している。生息環境が限定的で個体数も少ないことから注意を要する。	準絶滅危惧		
準絶滅危惧	スズキ	ハゼ	ニクハゼ <i>Gymnogobius heptacanthus</i>	遠浅で砂泥質の干潟が広がる汽水域に生息する。干潟の減少や環境悪化により生息状況が悪化している。	留意		
準絶滅危惧	スズキ	オオメワラスボ	サツキハゼ <i>Parioglossus dotui</i>	県南から吉野川までの紀伊水道側河川の最河口部に生息する。生息地点および個体数は少ない。	準絶滅危惧		
準絶滅危惧	スズキ	オオメワラスボ	ベニツケサツキハゼ <i>Parioglossus philippinus</i>	県南から那賀川までの紀伊水道側河川の最河口部に生息する。生息地点および個体数は少ない。	準絶滅危惧		
留意	ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ <i>Anguilla japonica</i>	全国的な傾向と同様、徳島県においても漁獲量が激減している。県内での生息状況・資源量の詳細については十分な資料がないため留意とする。			絶滅危惧IB類
留意	コイ	コイ	カネヒラ <i>Acheilognathus rhombeus</i>	在来・移入が未確定だが、生きた二枚貝に産卵する習性或季節移動による水域の連続性が必要である等、良好な陸水域環境の指標となる。	情報不足		
留意	コイ	コイ	イチモンジタナゴ <i>Acheilognathus cyanostigma</i>	在来・移入が未確定だが、生きた二枚貝に産卵する習性或季節移動による水域の連続性が必要である等、良好な陸水域環境の指標となる。	情報不足		絶滅危惧IA類
留意	コイ	コイ	シロヒレタビラ <i>Acheilognathus tabira tabira</i>	在来・移入が未確定だが、生きた二枚貝に産卵する習性或季節移動による水域の連続性が必要である等、良好な陸水域環境の指標となる。	情報不足		絶滅危惧IB類
留意	コイ	コイ	コウライモロコ <i>Squalidus chankaensis tsuchige</i>	生息河川が紀伊水道側河川に限定されている。国内外来亜種のスゴモロコとの交雑が懸念されるが実態は不明。	留意		学名変更。
留意	コイ	ドジョウ	オオシマドジョウ <i>Cobitis</i> sp. BIWAE typeA	「シマドジョウ」が分類が細分化され、分布が限定的となった。本種は瀬戸内海周辺地域に遺在固有的に分布する。			

カテゴリー	目名	科名	種名	理由	備考		
					改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
留意	サケ	サケ	サツキマス(アマゴ降海型) <i>Oncorhynchus masou ishikawae</i>	生息河川が吉野川、那賀川、海部川など一部の河川に限定されており、生息個体数も少ない。良好な河川環境の指標となる。	留意	準絶滅危惧	
留意	トゲウオ	ヨウジウオ	ガンテンイシヨウジ <i>Hippichthys (Parasyngnathus) penicillus</i>	生息河川が紀伊水道側河川の汽水域に限定されている。良好な環境の干潟周辺に見られる。	留意		
留意	トゲウオ	ヨウジウオ	テングヨウジ <i>Microphis (Oostethus) brachyurus brachyurus</i>	県南の一部の河川だけで確認されており、生息個体数も少ない。県内での再生産の有無については不明だが良好な河口域環境の指標となる。			
留意	ボラ	ボラ	ナンヨウボラ <i>Moolgarda perusii</i>	県内では吉野川、勝浦川、那賀川の河口などで確認されている。無効分散と見られるが、南方性ボラ類の中では数が少なく、良好な河口域環境の指標となる。			
留意	スズキ	ユゴイ	オオクチユゴイ <i>Kuhlia rupestris</i>	紀伊水道側の園瀬川および那賀川水系岡川の下流域のみで幼魚が確認されている。無効分散と見られるが、通し回遊魚であり、河川の縦断方向の連続性を要する。良好な河川環境の指標となる。			
留意	スズキ	ユゴイ	ユゴイ <i>Kuhlia marginata</i>	紀伊水道側の勝浦川と県南の牟岐川および海部川水系母川のみで幼魚が確認されている。県内では無効分散と見られるが、通し回遊魚であり、生息条件に河川の縦断方向の連続性を要する。良好な河川環境の指標となる。			
留意	スズキ	ネズッポ	オオクチヌメリ <i>Eleutherochir opercularis</i>	2011年に那賀川河口で初めて確認され、県内では他では確認されていない。情報が現時点では少なく生息状況については不明であるが、生息には良好な砂質干潟の環境が不可欠と考えられる。			
留意	スズキ	ハゼ	アシシロハゼ <i>Acanthogobius lactipes</i>	紀伊水道側河川の河口域に分布が限られており、生息数も少ない。十分な情報が得られていない。	留意		
留意	スズキ	ハゼ	ボウズハゼ <i>Sicyopterus japonicus</i>	紀伊水道側から県南河川まで広く分布するが、主に県南の河川に生息する。アユと同様に日本の河川性魚類では珍しい付着藻類食の魚類で、底質や水質環境の良好な河川環境の指標となる。	留意		
留意	スズキ	ハゼ	クロコハゼ <i>Drombus</i> sp.	県内での生息が確認された。汽水域に生息する。			

カテゴリー	目名	科名	種名	理由	備考	
					改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー
留意	スズキ	ハゼ	ルリヨシノボリ <i>Rhinogobius</i> sp. CO	分布が県南のある程度水量のある河川の早瀬に限定されている。	留意	
留意	スズキ	ハゼ	クロヨシノボリ <i>Rhinogobius burnneus</i>	分布が県南の小河川の上流域に限定されている。	留意	学名確定。
留意	スズキ	ハゼ	ゴクラクハゼ <i>Rhinogobius giurinus</i>	県内に広く分布するが、両側回遊性でヨシノボリ属の中では河川下流域の平瀬に生息し、河川改修等の影響を受けやすい。良好な河川環境の指標となる。	留意	
留意	スズキ	クロホシマン ジュウダイ	クロホシマンジュウダイ <i>Scatophagus argus</i>	県内では無効分散と見られるが、餌生物が豊富な環境を要することから、良好な汽水域環境の指標となる。		
留意	スズキ	カマス	オニカマス <i>Sphyraena barracuda</i>	県内では無効分散と見られるが、捕食者であり、餌生物が豊富な環境を要することから、良好な汽水域環境の指標となる。		

改訂前掲載種数

改訂後掲載種数

絶滅	1種	絶滅	1種
		野生絶滅	0種
絶滅危惧Ⅰ類	10種	絶滅危惧ⅠA類	6種
絶滅危惧Ⅱ類	6種	絶滅危惧ⅠB類	6種
準絶滅危惧	13種	絶滅危惧Ⅱ類	10種
留意	20種	準絶滅危惧	19種
情報不足	4種	留意	21種
地域個体群	0種	地域個体群	0種
合計	54種	合計	63種
		削除	4種

※検索3版:中坊編(2013)日本産魚類検索全種の同定、第3版。東海大学出版会。

リストの改訂によって削除した種(汽水・淡水魚類 : 4種)

カテゴリー	目名	科名	種名	理由	備考		
					改訂前 カテゴリー	環境省 カテゴリー	特記事項
—	コイ	コイ	ニッポンバラタナゴ <i>Rhodeus ocellatus kurumeus</i>	県内に生息したという情報が得られなかったため削除した。	情報不足	絶滅危惧IA類	
—	スズキ	ハゼ	ヒナハゼ <i>Redigobius bikolanus</i>	河口域に広く分布し、当面絶滅のおそれはないため削除した。	留意		
—	スズキ	ハゼ	スミウキゴリ <i>Gymnogobius petschiliensis</i>	近縁のウキゴリと比べ分布が広く、生息個体数も多く、当面絶滅のおそれがないため削除した。	留意	地域個体群	学名確定。
—	スズキ	ハゼ	ビリンゴ <i>Gymnogobius breunigii</i>	汽水域に生息するウキゴリ属の中では最も普通に見られ、当面絶滅のおそれはないため削除した。	留意		学名変更。